



アクティブ・ラーニングの推進に向けて III

今求められるアクティブ・ラーニングの推進に向けて、授業力錬成ゼミナール研修でも児童生徒主体の学び合いの充実を目指す研究が進められてきました。最後の公開授業では「児童生徒にとって追究したい価値のある課題の設定」や「必然性と目的意識のあるグループ学習」により、児童生徒が主体的・協働的に学ぶ姿が見られました。指導教員とグループ研修教員が研修を重ね、今求められる授業を具現化した公開授業について紹介します。

～授業力錬成ゼミナール研修から～

平成 27 年度管内授業力錬成ゼミナール研修公開授業が下記の日程で開催されました。

部 会	小学校国語	中学校社会	中学校英語
会場校	川北町立川北小学校	能美市立寺井中学校	小松市立丸内中学校
期 日	2月5日(金)	1月27日(水)	2月8日(月)
公開授業	3年◇ありの行列	2年◇欧米諸国における近代化	1年◇Unit 10 観光地から

授業力錬成ゼミナール研修は、若手のグループ研修教員が、優れた指導法を身に付けた指導教員から指導法を学ぶことにより、授業力の向上を図る研修です。研修教員は、指導教員による示範授業の参観を通して、各自の授業における課題を明確にし、研究授業等を通して研修を進めてきました。

公開授業当日は、今までの研修の成果も発表しました。今年度は、2つの中学校の公開授業に小学校の先生方の参加があり、小中の系統性という視点からも意見が出され、充実した会となりました。

◇小学校国語 ～主体的・協働的な学びと付けたい力の定着に向けた国語科の授業づくり～

○公開授業

3年 考えの進め方をとらえて、科学読み物をしようかいしよう「ありの行列」

教材文を読み、自分の「すごい！」がはっきり伝わる理由を考えるという課題でした。理由が明確になっている児童の文を取り上げ、そのよさを児童に考えさせ、「理由ははっきりポイント」として、自分の文章に生かす授業でした。「理由ははっきりポイント」が生かされている文とそうでない文を比較させ、その効果について児童が話し合う姿が見られました。

○授業整理会、研修報告から

児童の課題意識を高めるための工夫、必要感のあるペア・グループ活動の設定、児童が本気で書きたくなるための手立てについて協議しました。付けたい力を付けるために、柔軟で効果的な単元構想やねらいに迫るためのしかけが大切であるとともに、児童が考えたい、見つけたい、話合いたいという思いになるような必然性のある交流を仕組むことも重要であると共通理解しました。

○参加者から

- ・読みたい、考えたい、話し合いたいと子供たちが思えるような国語科の授業をこれから作っていきたいと思いました。すてきな授業をありがとうございました。
- ・国語科におけるグループ活動の意義や目的など、多くのことを考える機会となりました。
- ・1年間研究をされてきた先生方が授業をされるということで、楽しみにしていました。指導教員の熱心な指導のもと、向上心をもって研究されてきたことが伝わる授業、研修報告でした。互いに磨き合い成長できる仲間がいるってすてきだなと感じました。



◇中学校社会 ～考え深め広げる生徒主体の学びあいをめざして～

○公開授業

2年歴史 欧米諸国における「近代化」

3つの視点を明らかにした資料を読み取り、それから考えられることを交流し、他の考えを参考にしながら最終的に本時の課題について考えさせようとする授業でした。グループ活動を効果的に取り入れ、生徒の主体的・協働的な学習を意識した学び合いが見られました。生徒は、意欲的に資料を読み取り、考え、意見交流する中で、考えを深めていました。



○授業整理会、研修報告から

授業整理会では、学びに向かう子どもたちの姿が非常によかった。グループ活動にも慣れた様子であった。ぜひ、今後の参考にしたい。という参加者からの意見がありました。指導教員からは、授業者の問い返しが、ねらいに迫るものである必要性について指摘がありました。

その後、ゼミグループがこれまで大切にしてきた学び合いについて、研修教員からそれぞれの研究授業から見えた成果と課題に触れながら、報告がありました。1年間を通して、学んだことやこれから取り組みたいことが参加者にも伝わってきました。4人の研修教員と指導教員による研修が雰囲気よく進んだことが感じられました。

○参加者から

- ・生徒が授業に参加し、活動的で、日頃からの取組が活かされているのを感じました。書く、話す、話し合う活動が随所に見られ、これが学び合い学習なのだと思います。改めて、生徒たちがもっている力を再確認し、自分の授業でもあきらめず、付けたい力が付くようがんばっていきたいと思いました。
- ・自分が今している授業よりも1つ上のレベルを求めている授業でした。とても勉強になったので、これから自身の授業コーディネート力と子供に活用力や表現力を付ける授業を更に心がけたいと思いました。

◇中学校英語 ～一人一人が取り組みたくなる課題提示の工夫～

○公開授業

1年 行きたくなるような魅力的なプレゼンテーションにするには？

ALTの先生に国内の観光地の魅力を伝えるためにペアで英文を作成し、伝え方の工夫をするという課題でした。必然性ある課題に対して意欲的に取り組む生徒たちの姿が見られました。

○授業整理会、研修報告から

ゼミグループが研修課題としてきた「一人一人が取り組みたくなる課題提示の工夫」「可視化の工夫」の2つの視点で授業整理会を行いました。

その後、思考錯誤し研鑽を重ねた一年間の研修報告がありました。



○参加者から

- ・評価方法、課題、教材などよく練られた授業で、大変勉強になりました。生徒の意欲や主体性を中心に考えられた工夫や手立てが素敵でした。導入での設定の工夫や先生のモデル文が生徒の意欲に繋がっていると感じました。
- ・小学校での外国語活動との違いや繋がりなどを考える良い機会でした。1時間の見通しのもたせ方や振り返るための視点など、小学校でも参考にしたいと思いました。
- ・同じ1年生の英語を担当しているので、教材の工夫など大変参考になりました。「可視化」が生徒全員にわかりやすく、全員が授業に参加できる工夫だと思いました。